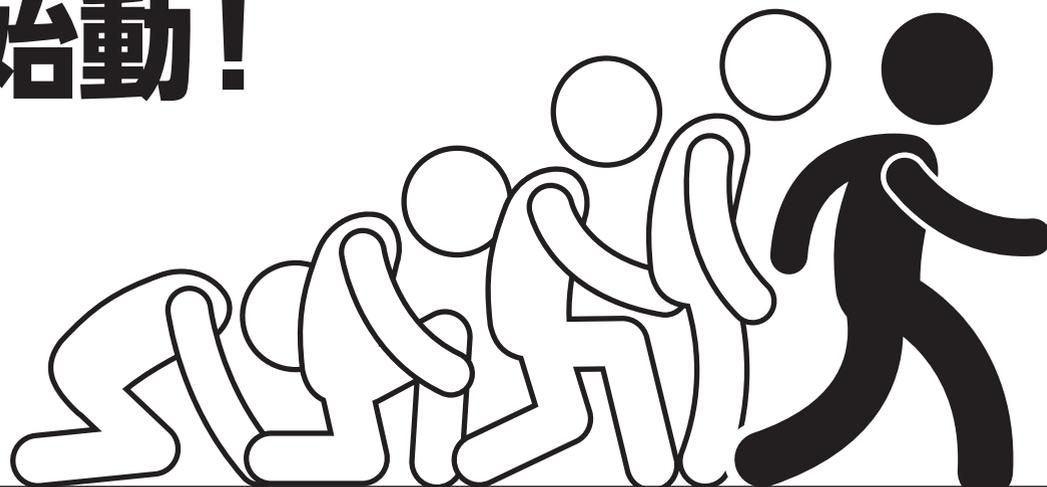


# TOREX IR REPORT VOL.14

第26期 報告書 2020.4.1 > 2021.3.31

特集

## 新中期経営計画 始動!



### CONTENTS

- P1 トップメッセージ
- P4 第26期 業績ハイライト
- P5 特集 新中期経営計画 始動!
- P9 連結財務ハイライト
- P10 会社情報・株式情報
- 裏表紙 About トレックス Vol.14 「2020年度 省エネ大賞 製品・ビジネスモデル部門 省エネルギーセンター会長賞」を受賞



トレックス・セミコンダクター

証券コード 6616

# 未来が求める価値を生み出し持続的に成長する企業へ。



代表取締役 社長執行役員

**芝宮 孝司**

## ごあいさつ

新型コロナウイルス感染症の蔓延が続く中、お亡くなりになった方々に謹んでお悔み申し上げます。罹患された方々が一日も早く回復され、また感染症が終息し、皆様の平穏な生活が戻りますことをお祈りいたします。

第26期(2021年3月期)の半導体・電子部品関連市場は、コロナ環境に対応した新しい生活様式・社会様式への変化に伴う需要が急速に増加し、特に半導体は、車載用を中心に世界的な需給逼迫が生じる状況となりました。当社グループの営業状況も、前期の落ち込みから大きく回復し、連結業績は、売上高237億12百万円(前期比10.3%増)、営業利益12億9百万円(同78.3%増)、経常利益12億6百万円(同78.4%増)、親会社株主に帰属する当期純利益9億33百万円(同123.6%増)となりました。

当社グループは、第27期(2022年3月期)より新たな5ヵ年の中期経営計画を始動しました。本計画にもとづく成長戦略を着実に遂行し、事業のさらなる拡大とともに脱炭素社会への貢献を果たしてまいります。



第26期を振り返り、営業状況について総括願います。



**半導体・電子部品関連市場の回復を受け、増収・大幅増益を果たしました。**

新型コロナウイルス感染症の拡大が世界的な景気後退を招き、あらゆる経済活動と人々の生活に甚大な影響を及ぼした1年でしたが、当社グループを取り巻く事業環境は、半導体・電子部品関連市場の急速な回復により、前期から大きく改善しました。

営業状況を事業会社別に振り返ると、半導体受託製造を担うフェニテックセミコンダクター(以下、フェニテック)は、北米における産業機器向けと中華圏における民生機器向けを中心に好調に推移し、連結子会社化以後で最高の売上高となる大幅な増収を果たしました。日本国内では、車載機器向けが回復に向かい、5G通信機器局やデータセンターなどのインフラ向けが増加しました。

フェニテックを除く旧トレックスグループ(以下、トレックス)は、前期に計上した中国のETC向け大型案件の反動減や、上半期にお

## 為替レートの推移

	2020年 3月期	2021年 3月期
平均為替レート (1米ドル)	109.1円	106.2円

る自動車生産休止などによる影響を受けたものの、下半期から車載向けを中心に急回復したことにより、通年ではほぼ前期並みの売上を確保できました。特に第4四半期の追い上げが顕著で、上場以来最高の四半期売上高となりました。地域別では、アジアおよび北米の伸びがトレックス全体を支えました。

結果として連結業績は、売上高が前期比約10%の増収、営業利益・経常利益がそれぞれ約78%の増益、最終利益が123%を超える大幅増益を遂げました。利益の増加要因は主に、トレックスにおける販管費等の費用抑制と、フェニテックにおける増収効果および稼働率向上などによるものです。



今後の事業拡大につながる取り組みをお聞かせください。



**協業・技術協力によるシナジーを活かし、新たな「強み」を確保しつつあります。**

当社グループは近年、他社との協業・技術協力による取り組みを推進し、事業拡大に向けた「強み」の確保に注力しています。

2019年9月には、開発リソースの強化に向けて、インドでアナログ半導体製品を開発するファブレスメーカー、Cirel Systems Pvt. Ltd. (以下、Cirel社)と資本提携しました。当期は、複数品目の当社グループ製品について、インドでの設計・開発を開始し、試作・量産化を目指しています。さらに2020年11月からは、協

業展開の一環として、当社グループの販売ネットワークを通じ、Cirel社製品をワールドワイドで販売しています。製品ポートフォリオの拡充と販売ネットワークの活用という両社の相互補完により、シナジーを生み出していきます。

また、当社グループは2020年6月、酸化ガリウムによるパワーデバイスの開発において先行技術を有する株式会社ノベルクリスタルテクノロジーと資本提携しました。今後、酸化ガリウムを使ったパワーデバイスの開発や、製造の技術革新への取り組みにおいて、同社との協業展開をグループを挙げて推進する考えです。

こうした進展の一方で当期は、フェニテックがここ数年かけて進めてきた工場統合を完了する予定でしたが、コロナ禍の影響を受けて一部のお客様において承認プロセスの遅延が発生したため、これを果たせませんでした。現在、旧工場でのフル生産が続いており、受注状況を勘案しつつ、生産の効率化に向けて早期の移行完了を目指してまいります。



新たに策定・始動した中期経営計画をご説明願います。



**脱炭素社会の実現をテーマに掲げ、5年後の売上高350億円を目指します。**

このたび当社グループは、第27期(2022年3月期)から第31期(2026年3月期)までの5カ年を計画期間とする新中期経営計画を策定し、スタートさせました。

本計画は、数値目標として3年後の第29期(2024年3月期)の連結業績における「売上高300億円」「営業利益30億円」達成を通過点とし、5年後の最終年度には「売上高350億円」「営業利益40億円」「DOE(純資産配当率)3.0%」の達成を目指します。

私たちが重点ターゲットと位置付けている車載機器や産業機器、医療機器といった市場は、民生機器と比較して、製品の採用が決まってから量産に至るまでに時間がかかる製品分野・ビジネスであり、そこで成果を上げて評価するには、一定のスパンが必要であることから、本計画の期間は5カ年としました。3年目の中間点として設定した「売上高300億円」は、旧中期経営計画において未達となった数値目標であり、5年後にはこれを超えて一層の企業体質改善を遂げ、経営効率の高い事業体へと進化していきます。

本計画の柱として打ち出したテーマは「脱炭素社会の実現に向けたグリーントランスフォーメーション(GX)の推進」です。企業理念に「地球環境の保全」を掲げる通り、従来から省電力技術とパワーデバイスの提供を通じて環境に貢献してきた当社グループですが、未来に向けた社会的要請への対応として、その方向性をより明確化し、社内の意識浸透と社外への発信を行ってまいります。

成長戦略のポイントを述べますと、トレックスでは、2020年7月に設置した製品企画部門を中心にマーケティング機能を強化し、市場から求められる技術・製品をタイムリーに企画・

開発していくものづくりへの転換を図ります。そして、小型化・省電力化に加えて低出力電圧化や中高耐圧化など、強みを際立たせた高付加価値製品の開発に注力し、成長機会を切り拓いていきます。

フェニテックでは、高品質・長期安定納入を担保する生産技術の強みを発揮しつつ、さらに「小回りの利く」ファクトリーへの変革を推進していきます。また、シリコン系パワーデバイスや化合物半導体の開発体制を強化し、共同研究やコラボレーションを通じて、お客様とのつながりを築いていきます。



第27期の見通しと、株主の皆様へのメッセージをお聞かせください。



**サステナブルな社会に貢献する価値を生み出せることが私たちの強みです。**

半導体・電子部品関連市場は、引き続き旺盛な需要が見込まれ、当社グループ事業においても、好調な受注環境の継続を想定しています。第26期は、フェニテックが売上拡大を牽引し、トレックスは期後半からの回復が顕著となりましたが、今期はトレックスのさらなる躍進が業績に寄与する見込みです。

以上を前提に今期の連結業績は、売上高260億円(当期比9.6%増)、営業利益20億円(同65.4%増)、経常利益20億円(同65.8%増)、親会社株主に帰属する当期純利益14億円(同50.0%増)を予想しています。

第26期の期末配当は、増益を踏まえて予定より増額し、1株当たり20円とさせていただきます。これにより年間配当は、中間配当の同16円と合わせて同36円、DOEは2.0%となりました。第27期の年間配当につきましては、前期より4円増額し、1株当たり40円を予想しております。中期経営計画の目標に掲げるDOE3.0%の達成に向け、今後5年間の業績向上により還元水準を高めてまいります。

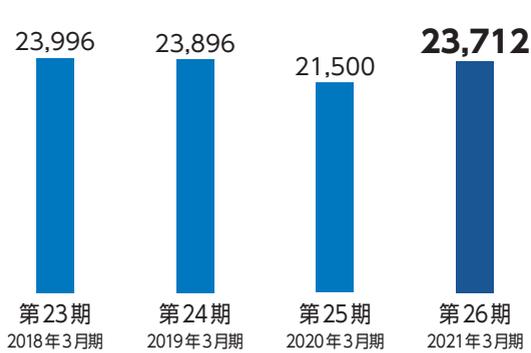
私たちが目指す「脱炭素社会の実現」は、SDGsの一丁目一番地と言えるテーマです。事業そのものを通じて、サステナブルな社会に貢献する価値を生み出せることが当社グループの強みであり、持続的に成長していくための条件であると考えています。

株主の皆様におかれましては、当社グループのさらなる発展にご期待いただき、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

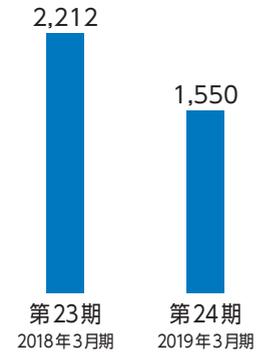


# 第26期 業績ハイライト

■ 売上高 (単位：百万円)



■ 営業利益 (単位：百万円)

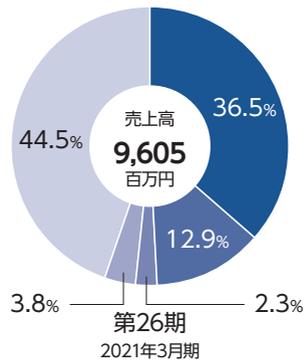


■ 親会社株主に帰属する当期純利益 (単位：百万円)



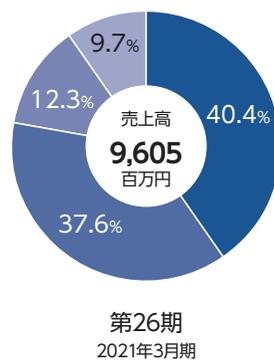
■ アプリケーション別売上高

- 産業機器
- 車載機器
- 医療機器
- ウェアラブル機器
- その他機器



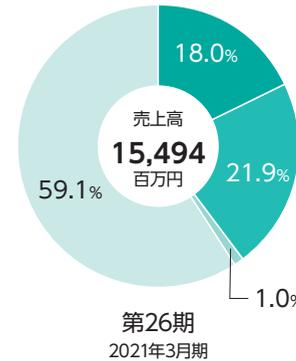
■ 地域別売上高

- 日本
- アジア
- 欧州
- 北米



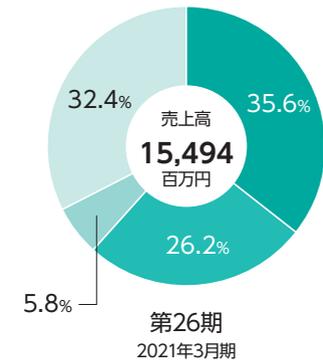
■ アプリケーション別売上高 (参考値)

- 産業機器
- 車載機器
- 医療機器
- その他機器



■ 地域別売上高

- 日本
- アジア
- 欧州
- 北米



※ トレックス・セミコンダクター向けの内部取引分を含みます。

# 新中期経営計画 始動！

当社の目指す姿

## Powerfully Small!

CMOS電源ICとパワーデバイスで  
脱炭素社会の実現を目指します

トレックスグループ 数値目標

2023 年度	連結売上高	300億円
	営業利益	30億円
2025 年度	連結売上高	350億円
	営業利益	40億円
	DOE	3.0%

### GX グリーントランスフォーメーションを推進

トレックスグループのGXとは、「電子回路の省電力化と実装基板の縮小化の推進」、  
「発熱を抑える低損失パワーデバイスの推進」により、脱炭素社会を目指すことです。

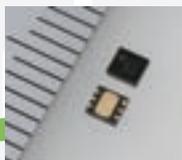
#### DC/DCコンバータ

省電力電子回路の推進



#### 小型パッケージ

実装基板の縮小



#### パワーデバイス

低熱損失



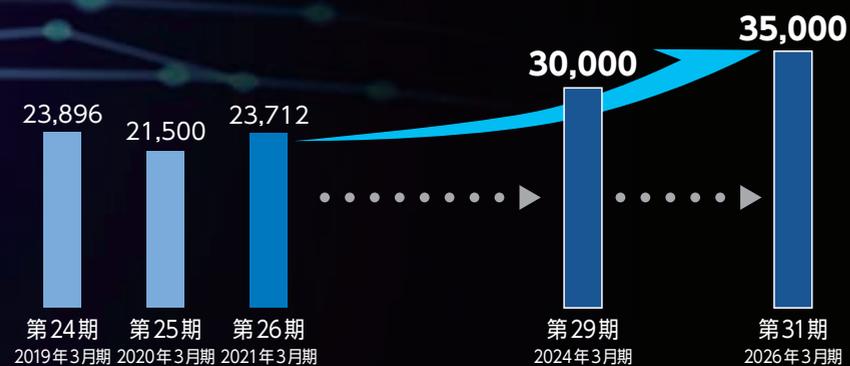
脱炭素社会



GXを  
半導体で支える  
グローバル企業へ

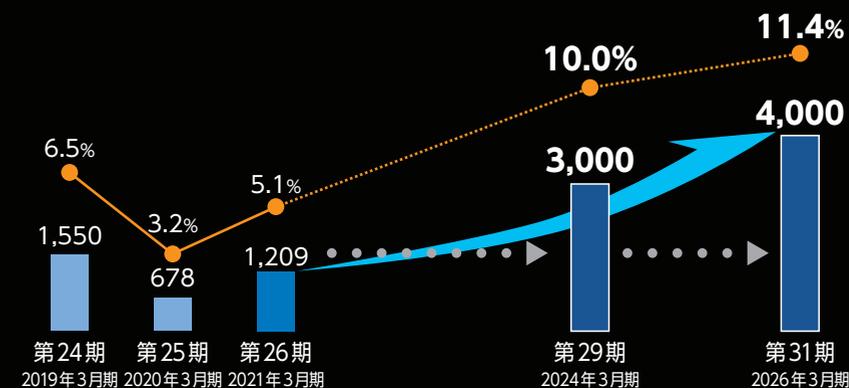
小型・省電力技術で社会に貢献する企業

■ 連結売上高目標 (単位：百万円)



■ 連結営業利益目標 (単位：百万円)

● 連結営業利益率目標



当社は、2021年2月15日に2022年3月期を初年度とする5か年の中期経営計画を策定いたしました。本中計では、当社の目指す姿として「CMOS電源ICとパワーデバイスで脱炭素社会の実現を目指します」と掲げました。当社は、企業理念に「地球環境の保全」を掲げており、創業当初から省電力・小型、低損失な電源ICやパワーデバイスの開発及び生産を「強み」として活動してまいりました。これからも、この「強み」を活かして脱炭素社会の実現に貢献すべく取り組んでまいります。

### 数値目標

数値目標としましては、3年目の2024年3月期に売上高300億円、営業利益30億円を目標としております。この目標は、前中計で掲げた目標でもありますが、米中貿易摩擦や新型コロナウイルス感染症の拡大による市況悪化の影響等により、残念ながら達成できませんでした。今回は、再

度目標として掲げ、3年目を通過点として5年目の2026年3月期に売上高350億円、営業利益40億円を目指します。

### 資本政策・配当方針

配当方針としましては、戦略的投資による成長力の向上を図りつつ、当社を取り巻く経営環境並びに中長期の連結業績及び株主資本利益率の水準を踏まえて実施していくことといたします。

配当につきましては、業績の水準を反映した利益配分として連結配当性向20%以上、安定的かつ継続的な株主還元の拡充としてDOE3%程度を目標としております。DOE3%につきましては、上場以来目標とする経営指標として掲げてきており、中期経営計画の最終年度である2026年3月期での達成を目指します。

## トレッサの成長戦略

### マーケット志向でタイムリーに！ こだわった製品の企画

- マーケット志向の製品企画を実現する製品企画部門の強化
- より強い製品の企画につながるコラボレーションとM&Aの推進

### 強みを際立たせた、

### 高付加価値のある製品開発を強化

- 車載機器／産業機器／医療市場で存在感を出す
- 高付加価値の電源ICとパワーデバイスの開発強化

### ファブレス

アナログ電源ICの専門メーカー

[強み]

- 省電力／小型化の技術
- 蓄積されたアナログ回路ノウハウ
- マーケティングと製品企画力
- フレキシブルな生産工場
- 高品質をキープするQC
- ワールドワイドの製品販売網

トレッサ・セミ  
グル

TOIREX

ファブレス&

それぞれが本  
プロ集団とな  
シナジーを発

## ADAS、自動運転を支える電源ICの開発

自動運転にとって「目」の役割を担うデバイスの増加

カーインフォテインメント分野も更なる電装化



各種センサーやカメラ、マイコンには  
高性能な電源ICが必要



ナビゲーション、メーター  
ディスプレイ

トレッサの電源ICの特長が技術を支えます。

高効率

高品質

省エネ

熱の抑制

低ノイズ

## 5G/IoT市場に特化した製品の拡充



電源ICのビジネス機会拡大

超小型、超低消費、低ノイズ製品の開発推進

# フェニテックの成長戦略

コンダクター  
ープ

**Phenittec**  
For Further Growth Together

ファウンドリ

業を突き詰めたり、相互補完で  
揮する。

## 半導体受託専門企業

ディスクリート、パワーデバイス、  
CMOSアナログプロセス

[強み]

- 高品質を支える生産ノウハウ
- 長期安定供給の JapanFab
- 車載 IATF16949 取得工場
- 専門性の高い製造対応力
- オリジナルデバイスの開発力
- パワーデバイスの開発力

## 脱炭素社会に向けた取り組みの実現

- パワー半導体の主力であるシリコンウエハー (IGBT、PMOS等) 及びシリコンより物質特性に優れる炭化ケイ素(SiC)や酸化ガリウム(Ga<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)などのウエハー材料を使った次世代パワー半導体の開発、量産

## 高い収益性・効率性の実現

- 岡山工場(本社・第一)の統合による収益性向上及び鹿児島工場のSiC事業の成長

## パワーデバイスの開発強化

省エネ、省電力に貢献する  
パワー半導体の需要は今後も拡大



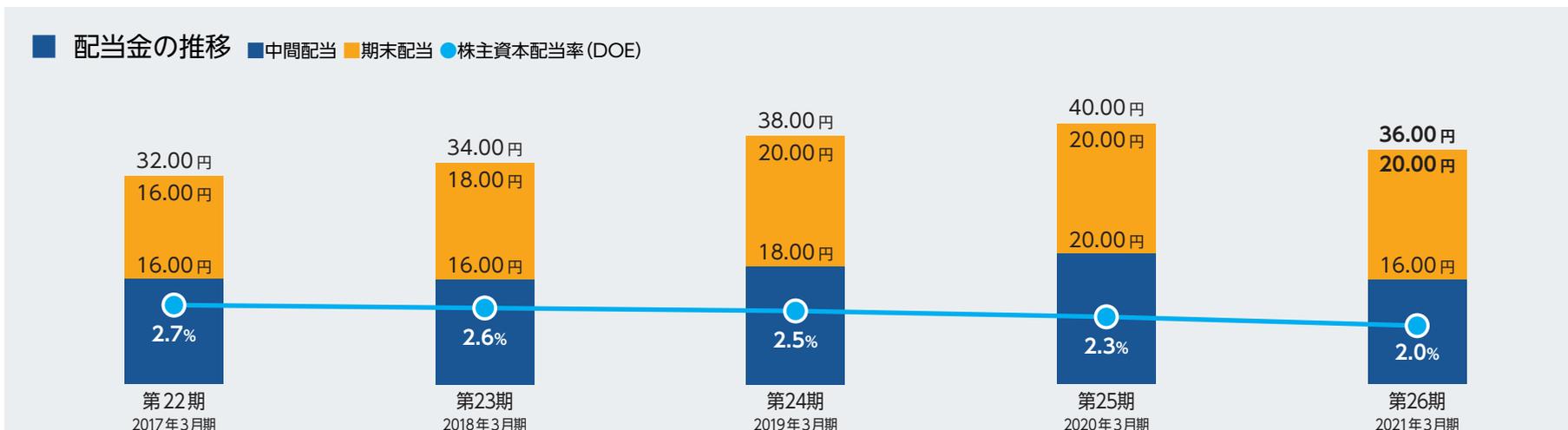
化合物半導体(SiC、酸化ガリウム)の  
開発、販売促進



## ■ 連結財務ハイライト

		第23期	第24期	第25期	第26期
		2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
売上高	(千円)	23,996,944	23,896,699	21,500,955	23,712,981
営業利益	(千円)	2,212,324	1,550,962	678,161	1,209,294
売上高営業利益率	(%)	9.2	6.5	3.2	5.1
経常利益	(千円)	1,998,187	1,820,249	676,222	1,206,211
親会社株主に帰属する当期純利益	(千円)	902,176	1,049,117	417,513	933,591
総資産額	(千円)	27,995,000	28,385,653	27,846,962	31,512,129
純資産額	(千円)	19,085,463	19,638,097	18,671,901	19,789,922
自己資本比率	(%)	51.8	69.0	67.1	62.8
自己資本利益率 (ROE)	(%)	7.0	6.2	2.2	4.9
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	2,335,353	2,699,779	1,144,832	1,790,473
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	△697,406	△3,256,749	△1,549,839	△1,545,832
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	1,151,752	△928,319	△1,176,672	2,175,021
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	12,280,327	10,883,205	9,172,228	11,681,709
1株当たり当期純利益金額	(円)	99.44	95.89	38.03	85.42
1株当たり純資産額	(円)	1,338.74	1,717.90	1,712.30	1,808.96
1株当たり配当額	(円)	34	38	40	36
配当性向	(%)	34.2	39.6	105.2	42.1

※ 売上高には、消費税等は含まれておりません。



## ■ 会社情報 (2021年3月31日現在)

### 会社概要

社 名 トレックス・セミコンダクター株式会社

所 在 地 東京都中央区新川1-24-1  
DAIHO ANNEX 3F

設 立 平成7年(1995年)3月

資 本 金 29億6,793万円

事業内容 1. 半導体デバイスの開発、設計製造  
2. 半導体デバイスの販売

従業員数 連結/1,016名 個別/175名

### 役員一覧 (2021年6月24日現在)

#### ■ 取締役 (監査等委員である取締役を除く)

代表取締役 社長執行役員 **芝 宮 孝 司**

取締役 常務執行役員 **木 村 岳 史**

取締役 執行役員 **日 笠 基**

取締役 執行役員 **宮 田 敬 史**

取締役 **石 井 弘 幸**

#### ■ 監査等委員である取締役

常勤監査等委員(社外) **池 田 耕 太 郎**

監査等委員(社外) **小 松 昭 熙**

監査等委員(社外) **川 俣 尚 高**

監査等委員(社外) **清 水 満 昭**

## ■ 株式情報 (2021年3月31日現在)

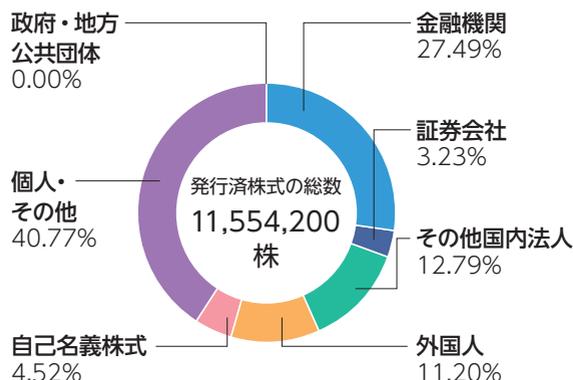
### 株式の状況

発行可能株式総数..... 36,673,600 株

発行済株式の総数..... 11,554,200 株

株主数 ..... 3,063 名

### 所有者別株式分布



### 大株主 (上位 10 名)

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	994	9.01
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	774	7.02
THE BANK OF NEW YORK 133652	764	6.93
藤阪 知之	507	4.60
株式会社中国銀行	472	4.28
アルス株式会社	452	4.10
吉備興業株式会社	397	3.61
尾崎 貴紀	321	2.91
芝宮 孝司	294	2.67
尾崎 公子	205	1.86

※1 当社は、自己株式を522,099株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

※2 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

### 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヶ月以内
株主確定基準日	3月31日
期末配当金株主確定日	3月31日
中間配当金株主確定日	9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先・連絡先  
(郵便物送付先)  
〒168-0063  
東京都杉並区和泉2丁目8番4号  
(連絡先)  
0120-782-031

公告方法  
当社の公告方法は、電子公告としております。  
ただし事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載しております。

当社の公告掲載URLは次のとおりです。  
<https://www.torex.co.jp/>

# About トレックス

アバウト・トレックス Vol.14

TOREXにまつわる色々なことをご紹介します。

## 「2020年度 省エネ大賞 製品・ビジネスモデル部門 省エネルギーセンター会長賞」を受賞

一般財団法人省エネルギーセンター主催、経済産業省後援の「2020年度 省エネ大賞」にて降圧DC/DCコンバータXC9276シリーズが「製品・ビジネスモデル部門 省エネルギーセンター会長賞」を受賞いたしました。

### 受賞製品 XC9276シリーズについて

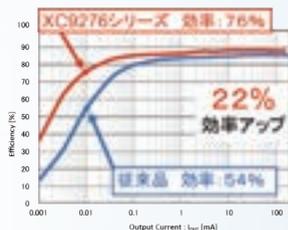
XC9276シリーズは、ICの消費電流の削減と出力電圧切替え機能の搭載により、従来品に比べ大幅に省エネルギー性能が向上しています。

今回の受賞は、今後発展が見込まれる小型で長時間駆動が必要なIoT機器、ウェアラブルデバイス等で必要となるDC/DCコンバータにおいて、XC9276シリーズの高い省エネのポテンシャルが評価され受賞となりました。

当社の電源ICは、これまでに経済産業省主催の「第7回ものづくり日本大賞」製品・技術部門にて「優秀賞」を受賞しているほか、日刊工業新聞社主催の「2019年「超」モノづくり部品大賞」において「奨励賞」を受賞するなど、多くの評価を頂いております。今後も省電力・小型の技術力を活かした製品を開発し、企業価値の向上につとめてまいります。

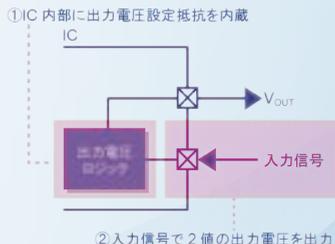
#### ■ 超低消費電流の技術

ICの制御状態に応じてIC内部回路を停止させ超低消費電流を実現



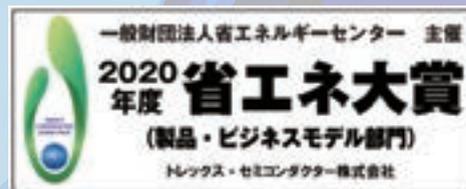
#### ■ 出力電圧を2値に切替える技術

外付け部品無く入力信号のみで2値の出力電圧を切替えることが可能な機能を実現



#### ■ 実装面積を小型化する技術

コイルのインダクタンス値及びICパッケージの小型化により実装面積の削減を実現



当社の最新情報はWEBサイトで  
ご覧いただけます。

トレックス



<https://www.torex.co.jp/>



トップページ



IR情報 <https://ir.torex.co.jp>

トレックス・セミコンダクター株式会社

〒104-0033 東京都中央区新川1-24-1

DAIHO ANNEX 3F

TEL (03)6222-2851



見やすく読みまちがえにくいユニバーサル  
デザインフォントを採用しています。



環境に配慮した植物油  
インキを使用しています。

